

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第288集

K A M I H I J I R I B A T A

上聖端遺跡Ⅴ

長野県佐久市上聖端遺跡第5次発掘調査報告書

2022.3

佐久市教育委員会

第 I 章 調査の経緯	1
第 1 節 経過と立地	1
第 2 節 調査体制	1
第 3 節 検出遺構・遺物の概要	2
第 II 章 遺構と遺物	2
第 1 節 竪穴建物址	2
第 2 節 掘立柱建物址	13
第 3 節 土坑	13
第 4 節 ピット	13
第 III 章 まとめ	13
表	13
図版	19
抄録	
奥付	

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 経過と立地

上聖端遺跡Ⅴは佐久市長土呂字上聖端地籍に所在する。遺跡は浅間山に源を発する濁川と蟹沢の浸食によって形成された「田切り」地形に挟まれた南北に延びる台地上中央付近に位置する。縄文時代から中世にかけての複合遺跡で、標高705～760mを測る。遺跡の周辺地域では、1993年3月の上信越自動車道佐久インターチェンジ開通前後から、道路建設・流通団地造成・店舗建設など開発が進み、発掘調査も数多く行われてきた。代表的な遺跡としては、今回の調査地域北東で、流通業務団地造成に伴う聖原遺跡の発掘調査が平成元年～平成7年にかけて実施され、古墳時代から平安時代を中心とした竪穴建物址が900軒以上調査された。上聖端遺跡でも過去4次に及ぶ調査が実施され、多くの遺構・遺物が検出されている。今回、遺跡内で株式会社カネットにより配送センター建設が計画されたことから、遺跡の保護を目的とし、状況を把握するための試掘調査を令和元年10月10日～16日に実施した。その結果、遺構が検出されたため、遺構の破壊が予測される掘削箇所等について記録保存を目的とした発掘調査を行うこととなった。なお、掘削部分以外については埋土保存を行った。

第 2 節 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	榑澤晴樹	吉岡道明(令和3年5月～)	
事務局	社会教育部	部長	青木 源	三浦一浩(令和2年度)	土屋 孝(令和3年度)
	文化振興課	課長	東城 洋	平林照義(令和3年度)	
		企画幹	吉田 晃	岡部政也(令和2年度)	谷津和彦(令和3年度)
	文化財調査係	係長	山本秀典		
		係	富沢一明	上原 学	羽毛田卓也 小林眞寿 久保浩一郎
		調査担当者	小林眞寿		
		調査員	甘利隆雄	岩松茂年	大矢志慕 小林喜久子 小林節子
			小林敏雄	堺 益子	清水律子 副島充子 田中ひさ子

花岡美津子 細谷秀子 堀籠滋子 宮川真紀子 山口ひとみ
柳澤孝子 柳沢千賀子 山田叔正 油井満芳

第3節 検出遺構・遺物の概要

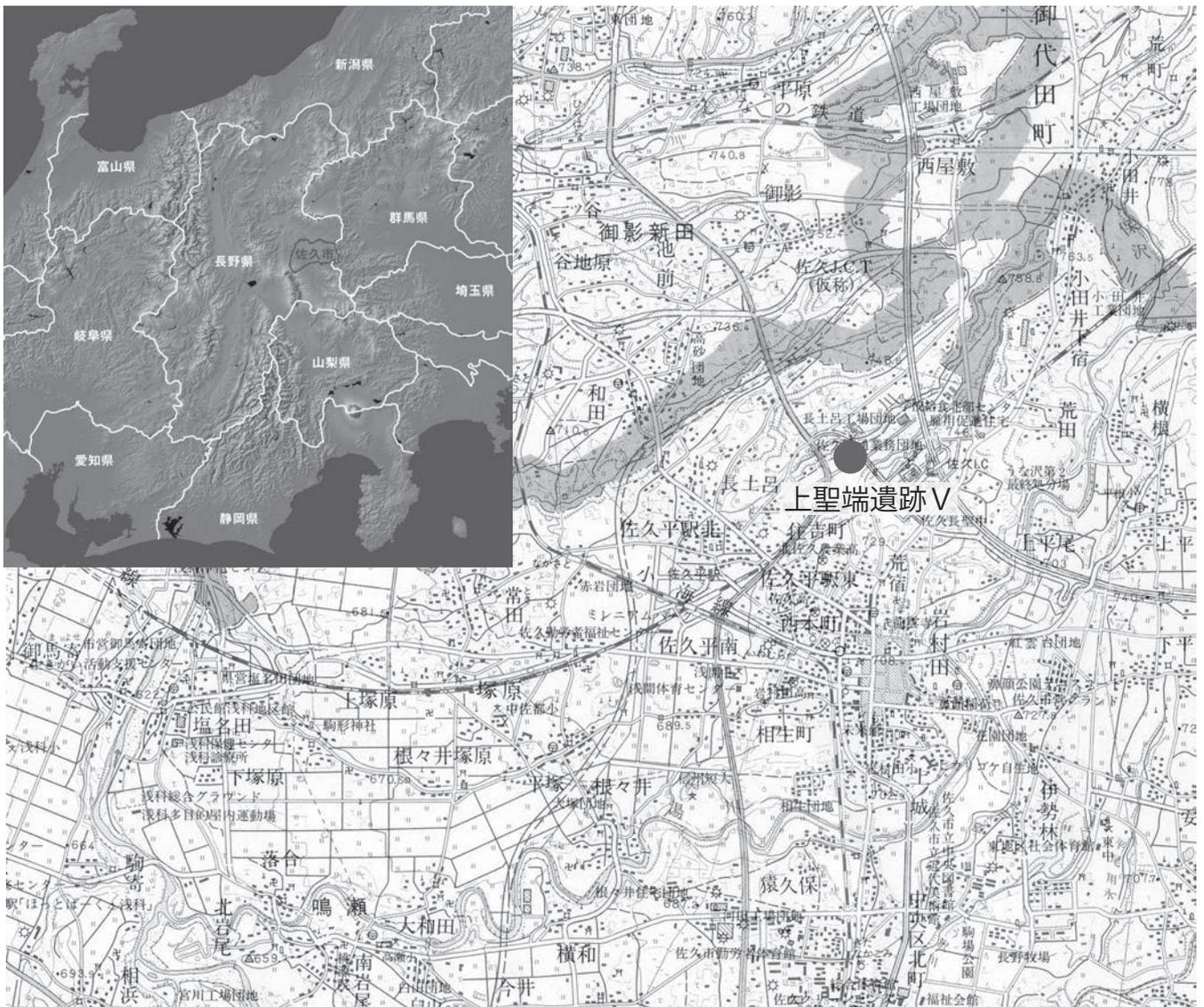
遺構 竪穴建物址 - 8棟 掘立柱建物址 - 1棟 土坑 - 1基 ピット - 10基
遺物 土師器 須恵器 石器・石製品 鉄器

第Ⅱ章 遺構と遺物

第1節 竪穴建物址

● H1号竪穴建物(第3図)

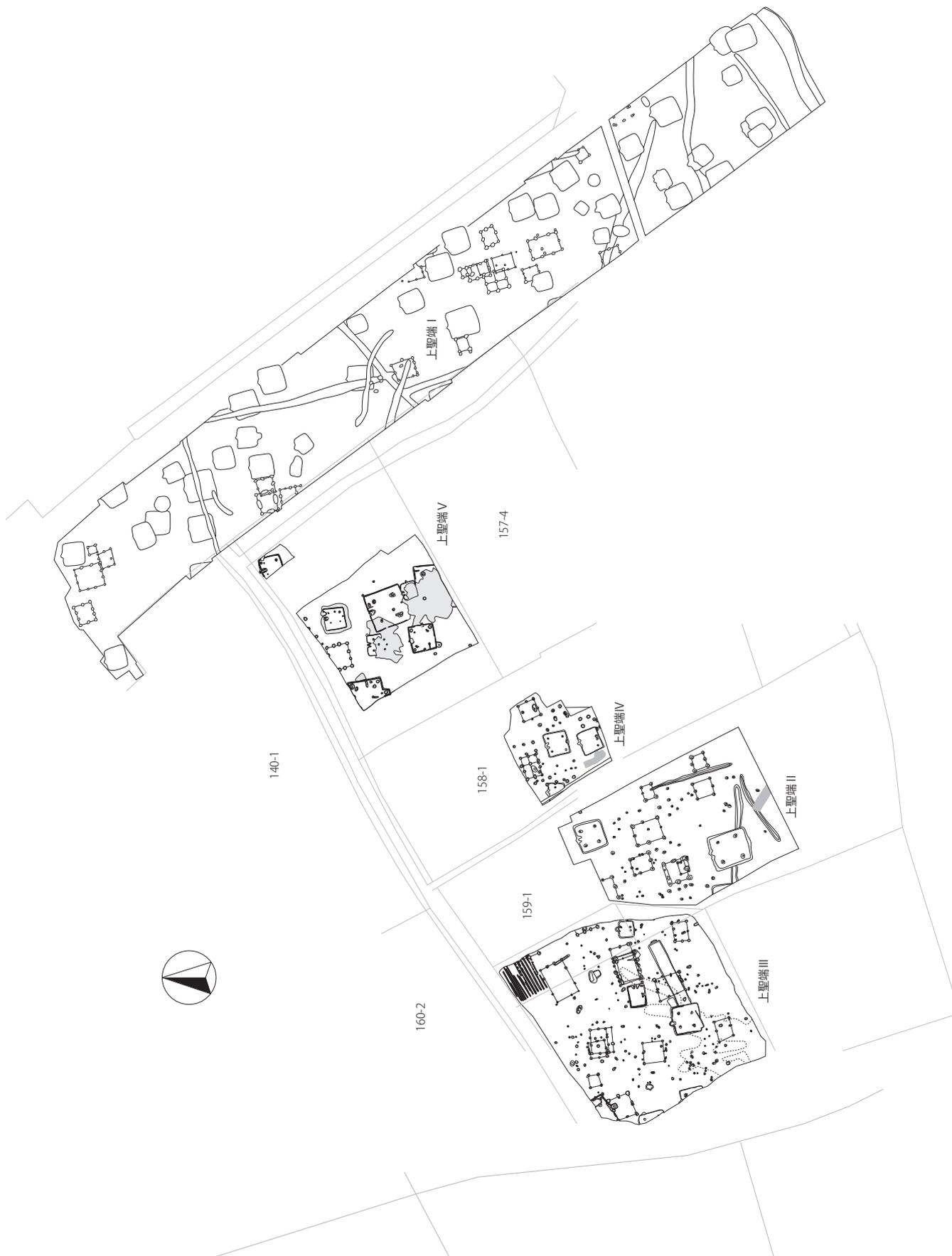
調査区北東端で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。検出範囲において他遺構との重複関係は有さない。N-15°-Wに長軸方位をとり、長軸長4.56m、壁残高0.4mの規模である。床面上で検出された4基のピットのうち、P1~P3の3基は支柱穴でφ16cmの柱痕が認められた。P4は貯蔵穴である。カマドは北壁の中央部分に所謂「地山削出」で両袖を造り、焚口を石で構築し、全体を



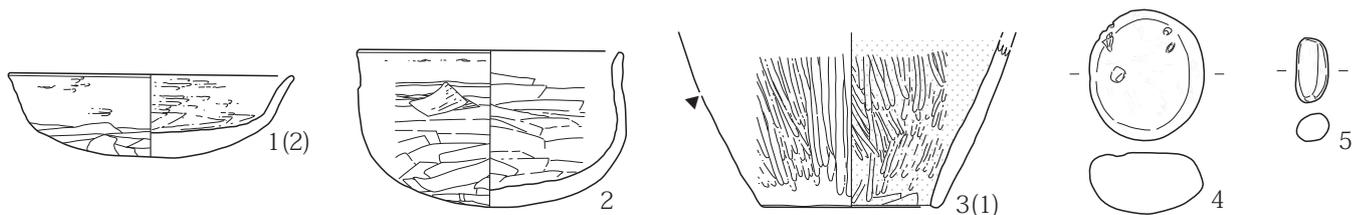
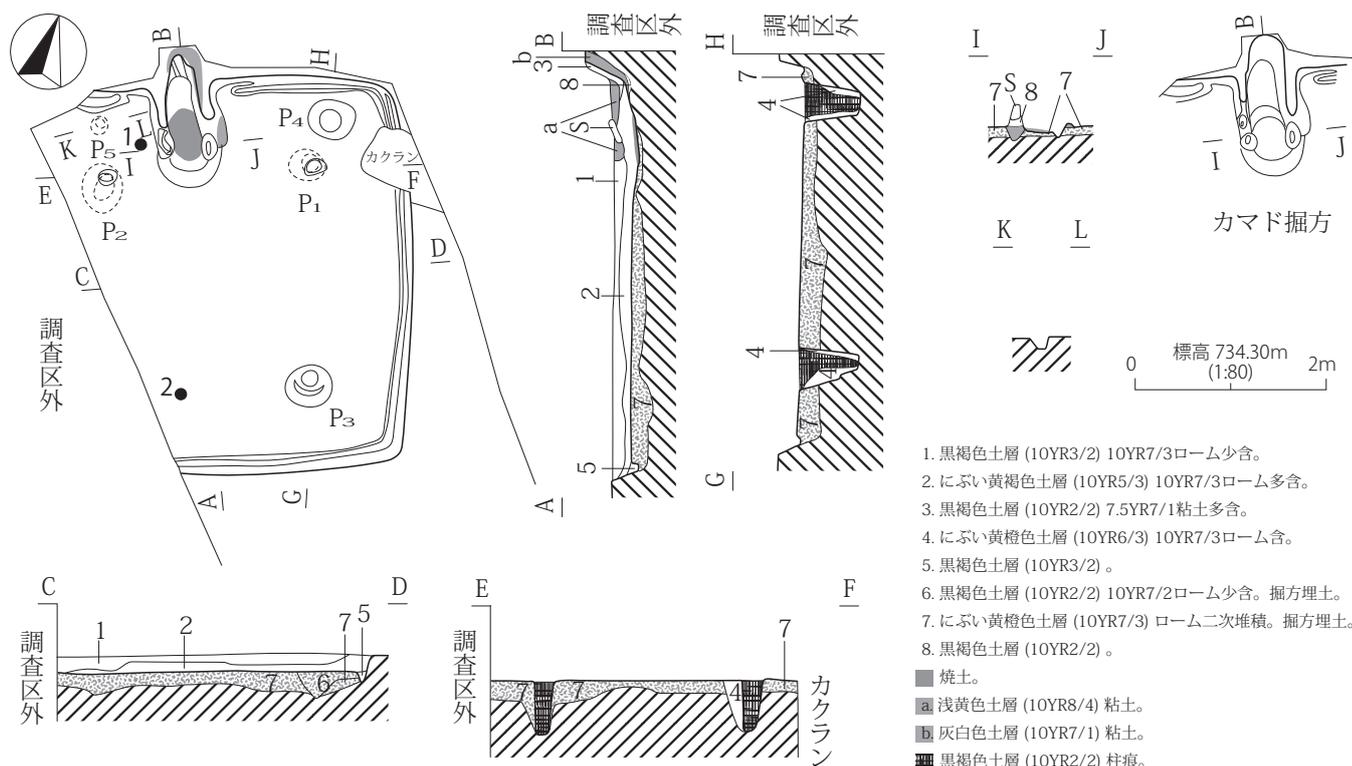
第1図 上聖端遺跡Ⅴの位置 (1:50,000)

粘土で被覆して構築されていた。カマド部分を除く壁下には周溝が巡っている。

遺物は、土師器、石器・石製品が出土している。土師器には坏・鉢・甑の器種が認められる。坏1は須恵器坏蓋模倣の形態で、外面底部にヘラケズリが施される他はヘラミガキ調整が施される。鉢2は身の深い



第2図 上聖端遺跡次別調査位置



第3図 H1号竪穴建物

丸底の底部から短い口縁部が立ち上がる形態で、内面ナデ、外面ヘラケズリ調整が施される。甕3は底部が全開する形態で、内外面にヘラミガキ調整が施され、内面には更に黒色処理が施されている。石器は磨石が、石製品は軽石製品が各1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から、本址は古墳時代後期6世紀代の実年代が想定される。

● H2号竪穴建物(第4・5図)

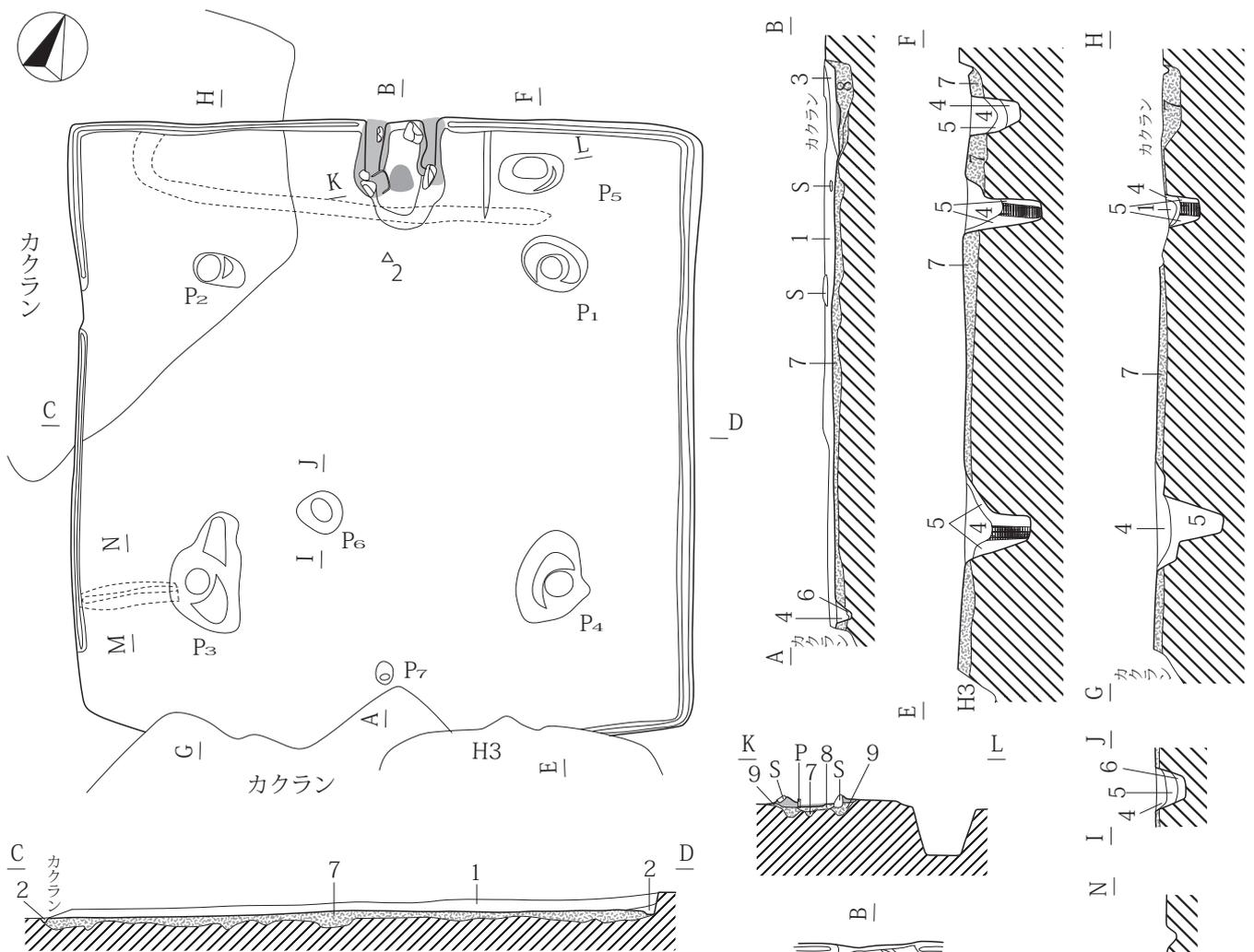
調査区中央付近で検出された。H3号竪穴建物に切られる。N-20°-Wに長軸方位をとり、短軸長7.63m、壁残高0.14mの規模である。床面上から検出された7基のピットのうち、均等に配置されるP1~P4の4基が支柱穴で、φ16cmの柱痕が確認された。P5は貯蔵穴、P7は出入口施設であるが、P8の性格は不明である。カマドは北壁中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド部分と西南隅を除く壁下には周溝がめぐらされる。掘方から、P3と周溝を繋ぐ間仕切りが検出された。

遺物は、土師器、須恵器、石器・石製品が出土している。土師器には、坏・甕・壺の器種が認められる。坏は半球状の深めの底部から口縁部が外反するもので、外面底部がヘラケズリの他は、ヘラミガキ調整である。内面には更に黒色処理が施される。甕は長胴で、体部が膨らまない形態である。ヘラケズリ主体の調整が施されている。壺は球胴の形態で、6は外面に赤彩が施される。須恵器は坏蓋が1点出土している。石器は砥石と編物石が、石製品は軽石製品が出土している。

以上の出土遺物の特徴から、本址は古墳時代後期6世紀代の実年代が想定される。

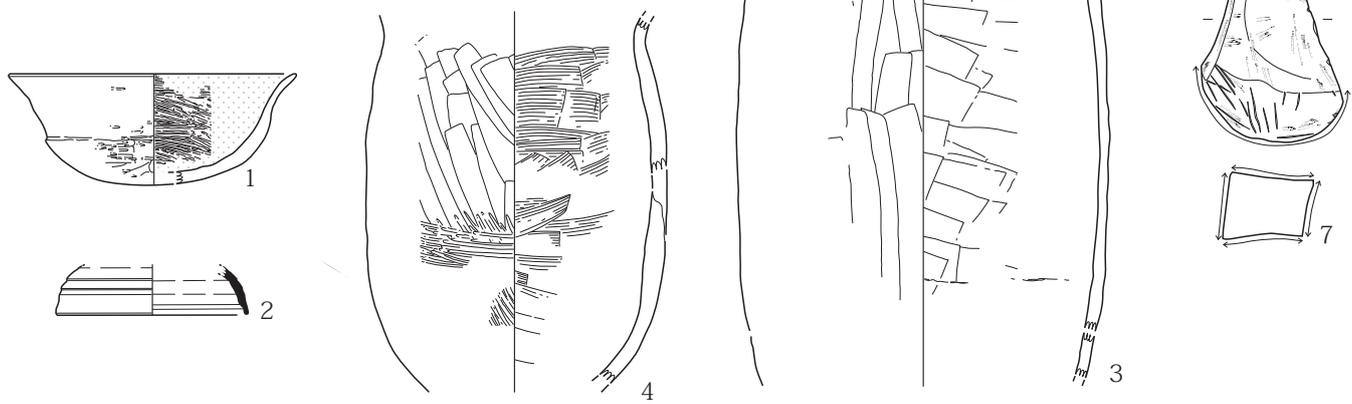
● H3号竪穴建物(第6図)

H2の南隣りに検出された。H2号竪穴建物を切る。西南部分がカクランに破壊されるため全容は不明

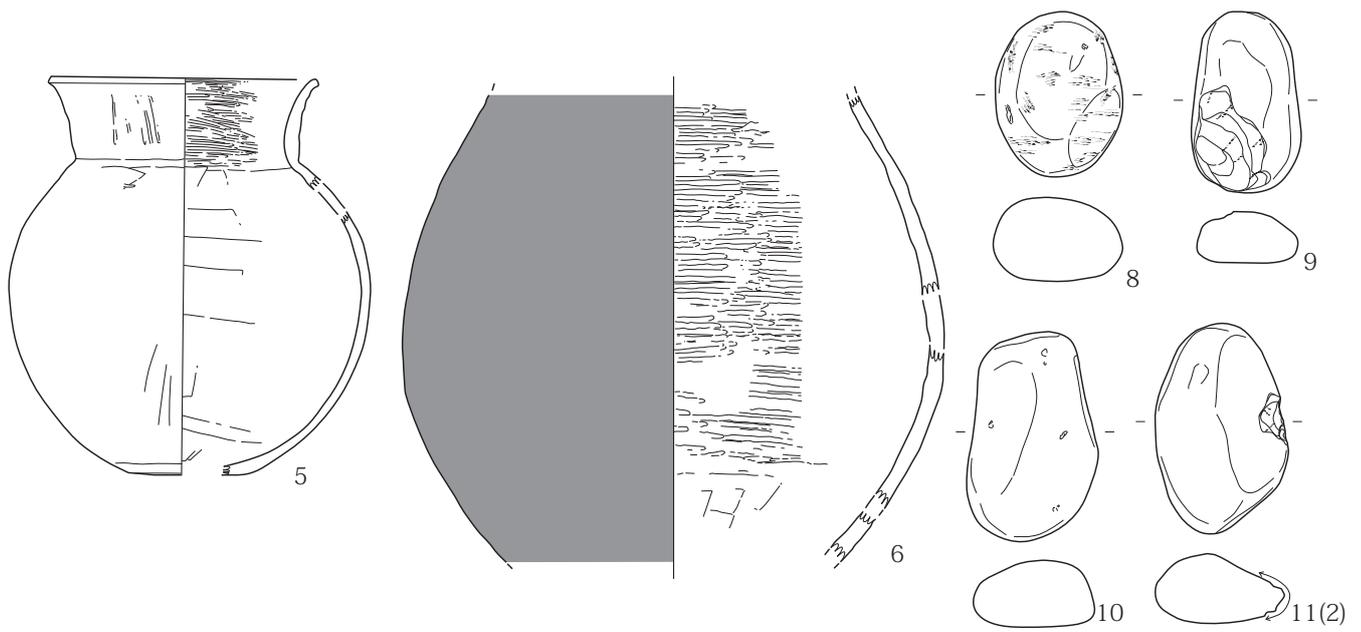


1. にぶい黄橙色土層 (10YR6/3) 10YR7/4ローム・2/2含。
 2. にぶい黄橙色土層 (10YR7/2) ローム主体。
 3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 焼土含。
 4. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/2ローム少含。
 5. にぶい黄橙色土層 (10YR7/3) ローム二次堆積。
 6. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム二次堆積。
 7. 明黄褐色土層 (10YR7/6) 10YR7/4ローム主体。床面は3/2、2/2少含。
 8. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム極少含。
 9. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/2少含。
- 焼土。
 - にぶい黄橙色土層 (10YR6/4) 粘土。
 - 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。

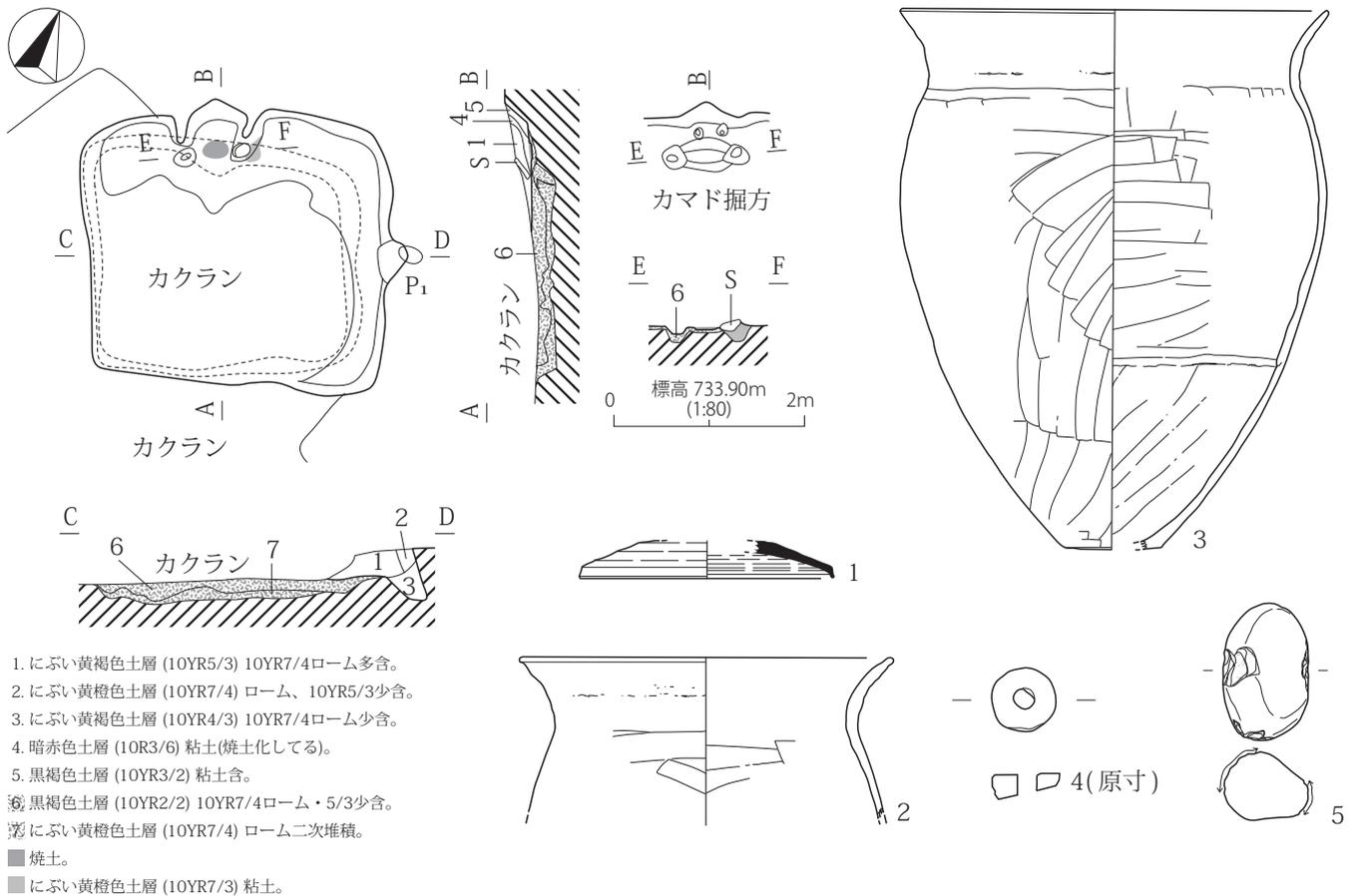
カマド掘方



第4図 H2号竪穴建物(1)



第5図 H2号竪穴建物(2)



第6図 H3号竪穴建物

1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
 2. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム、10YR5/3少含。
 3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム少含。
 4. 暗赤色土層 (10R3/6) 粘土(焼土化してる)。
 5. 黒褐色土層 (10YR3/2) 粘土含。
 6. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム・5/3少含。
 7. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積。
- 焼土。
■ にぶい黄橙色土層 (10YR7/3) 粘土。

である。N-22°-Wに長軸方位をとり、長軸長3.26m、短軸長3.03m、壁残高0.3m、面積7.27㎡の規模である。東壁中央に1基検出された他はピットは存在しない。カマドは北壁中央部分に所謂「地山削出」で構築されているが、掘方状態であった。掘方から一回り小型の旧建物の痕跡が検出されており本址は建て替えが行われたことが判明した。

遺物は、土師器、須恵器、石器・石製品が出土した。土師器は武蔵甕が2点出土している。須恵器は坏

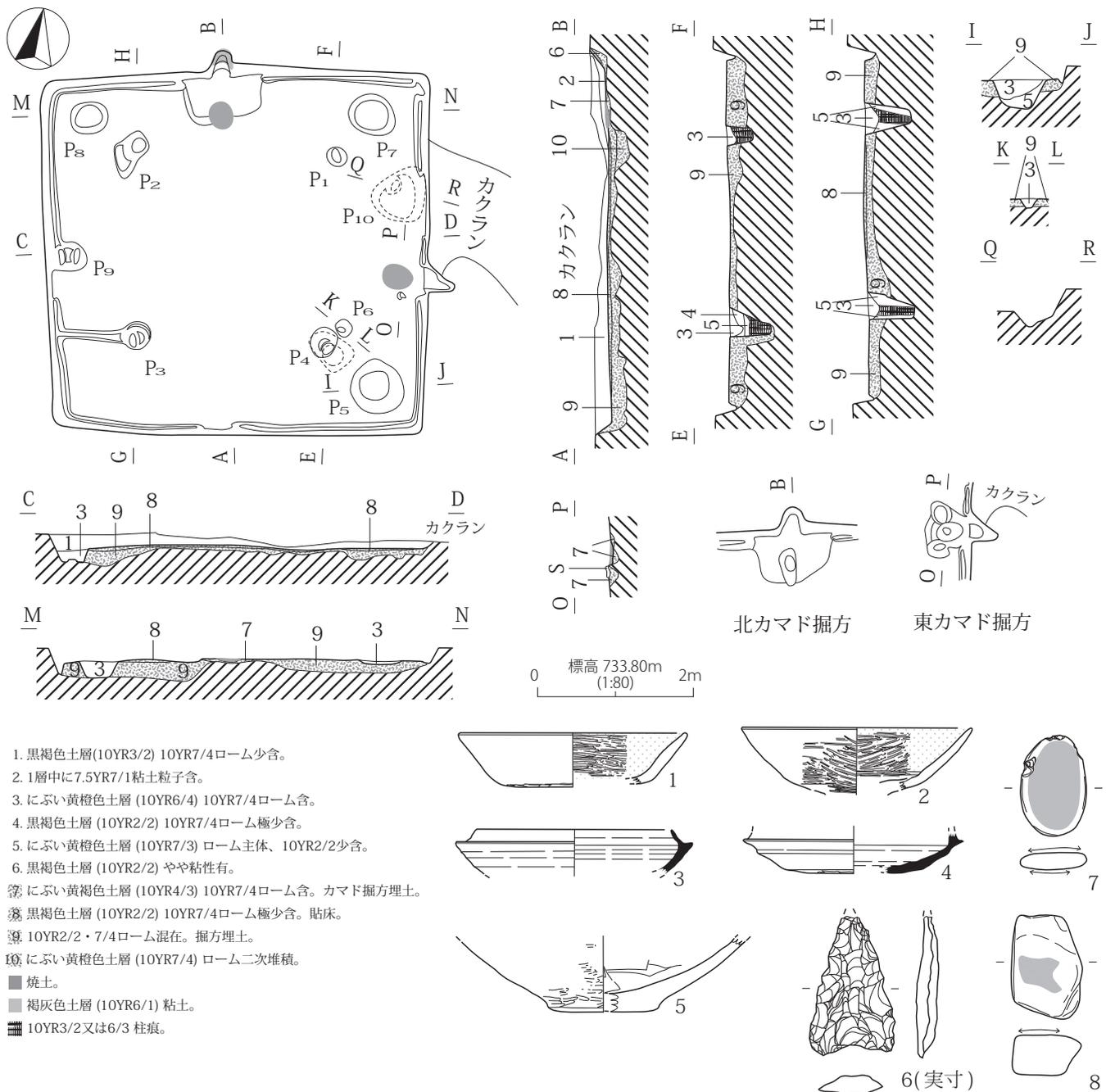
蓋が1点出土した。石器は編物石が、石製品は滑石製の白玉が各1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は8世紀第IV四半期の実年代が想定される。

● H4号竪穴建物(第7図)

H2の西南隣りで検出された。D1を切る。N-10°-Wに長軸方位をとる。長軸長4.95m、短軸長4.74m、壁残高0.18m、面積20.16㎡の規模である。床面上、掘方から計10基のピットが検出された。均等に配置されるP1~P4の4基が支柱穴で、φ16cmの柱痕が確認された。掘方から検出されたP10は貯蔵穴、P9は出入口施設、P5・6が旧支柱穴の他は性格不明である。カマドは北壁と東壁の中央部分に2基検出されたが、東から北にカマドが移築された結果である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡り、P3から周溝に延びる間仕切が存在する。

遺物は、土師器、須恵器、石器が出土している。土師器には坏・高坏・壺の器種が認められる。坏・高坏の内面にはヘラミガキ後黒色処理が施される。壺は底部片で底部が突出している。須恵器は坏が2点出



土している。石器はチャート製の打製石鏃 1 点と磨石 2 点が出土しているが、石鏃は重複するD1に帰属するものであろう。

以上の出土遺物の特徴から、本址は古墳時代後期 6 世紀代の実年代が想定される。

●H5号竪穴建物(第8図)

H4の西北隣りに検出された。カクランにより南半部分が消失している。N-9°-Wに長軸方位をとり、短軸長3.94m、壁残高0.07mの規模である。6基検出されたピットのうち均等に配置されるP1~P4が支柱穴、P6は出入口施設であるが、P5は性格が不明である。カマドは北壁中央部分に所謂「地山削出」で構築されているが、掘方状態であった。東壁の壁下には周溝が存在する。

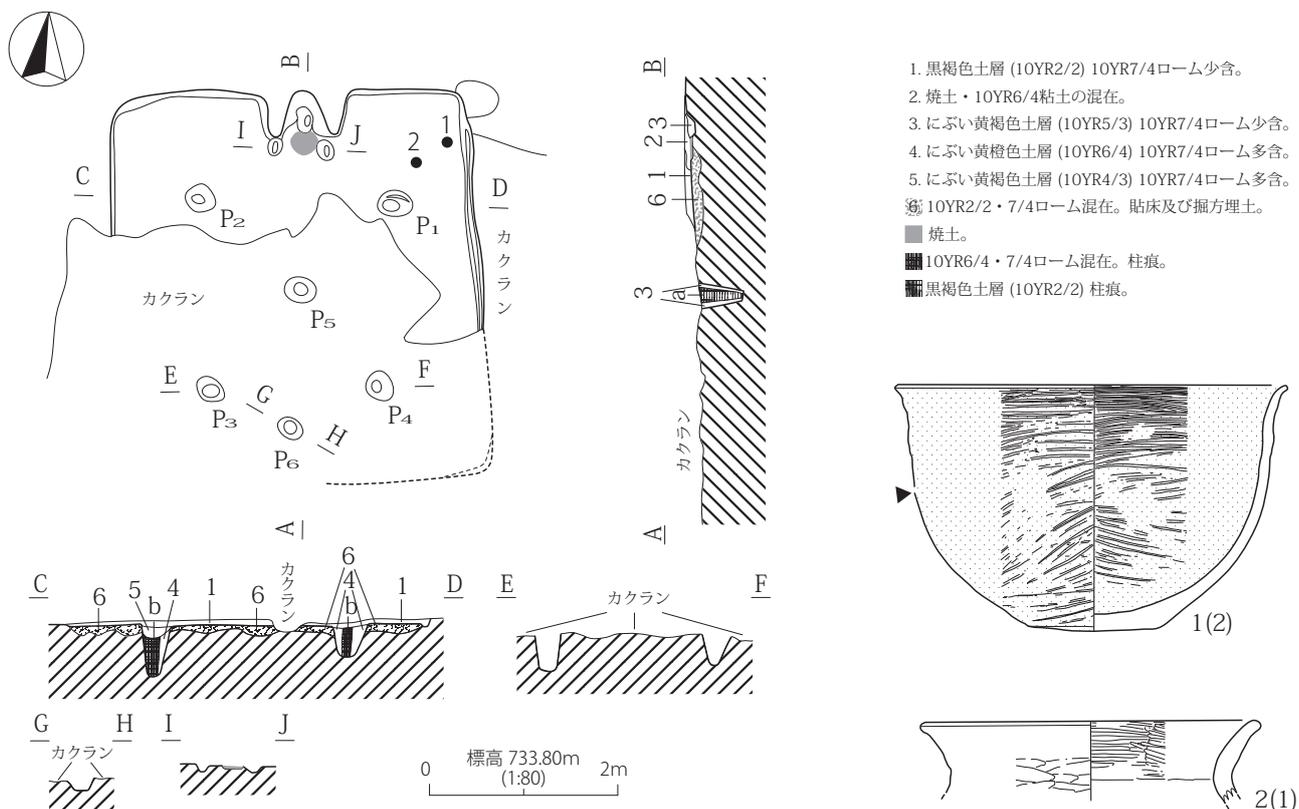
遺物は、土師器の鉢と甕が各 1 点出土している。

出土土器の形態的特徴から、本址は古墳時代後期 6 世紀代の実年代が想定される。

●H6号竪穴建物(第9図)

調査区北東部で検出された。カクランにより上面が削り取られている。N-9°-Wに長軸方位をとる。長軸長4.21m、短軸長4.01m、壁残高0.21m、面積14.37㎡の規模である。床面上、掘方から検出された 8 基のピットのうち、均等に配置されるP1~P4の 4 基が支柱穴である。P6は出入口施設、P8は貯蔵穴であるが他のものは性格が不明である。カマドは北壁中央部分に壁際には均等に礎石が配置されており、壁柱穴と同様な機能をはたしたものと考えられる。カマドは北壁の中央部分に所謂「地山削出」で構築されているが、掘方状態であった。北壁から北西隅を除く壁下には周溝が巡らされている。P2、P3から周溝に向かう間仕切が存在する。

遺物は、土師器、石器が出土している。土師器には坏・鉢・甕の器種が認められる。坏は 1 のような半球状のもの、2 のような扁平な丸底から口縁部が大きく外反する形態が存在する。鉢は形態的には小型甕と言ったほうが良いかもしれないが、外面ミガキ調整のため鉢とした。甕5は底部片、6は体部下半に最



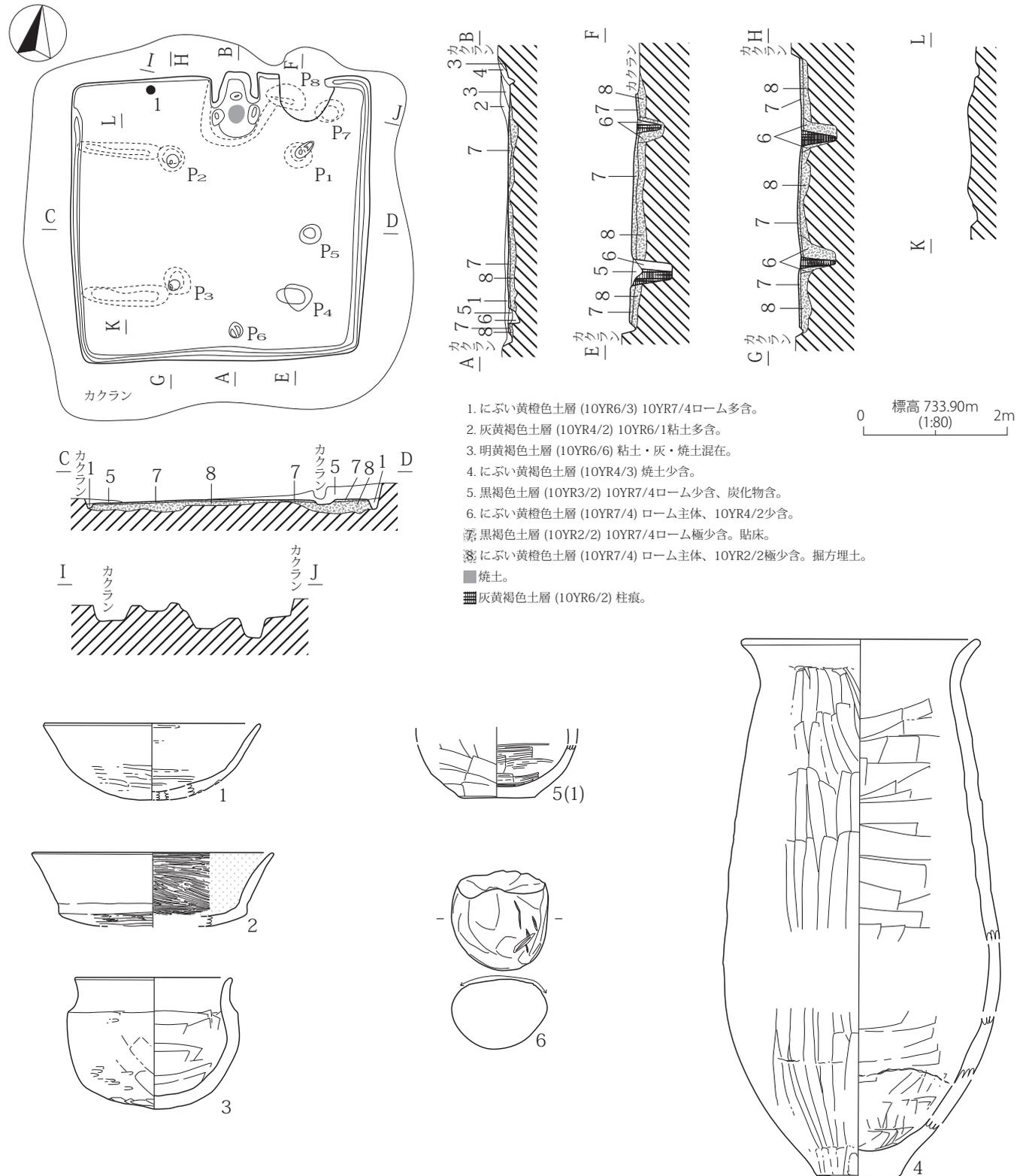
第 8 図 H5 号竪穴建物

大径を有し、底部が突出する。石器は砥石が1点出土している。

出土土器の形態的特徴から、本址は古墳時代後期6世紀代の実年代が想定される。

●H7号竪穴建物(第10図)

調査区南端で検出された。H3に切られ、カクランによる破壊を受けている。壁残高0.37mの規模である。床面上から検出された2基のピットは支柱穴であり、φ16cmの柱痕が確認された。カマドは北壁中央部分に構築されているが、火床が残存してただけであった。北壁東半から東壁の壁下には周溝が巡る。

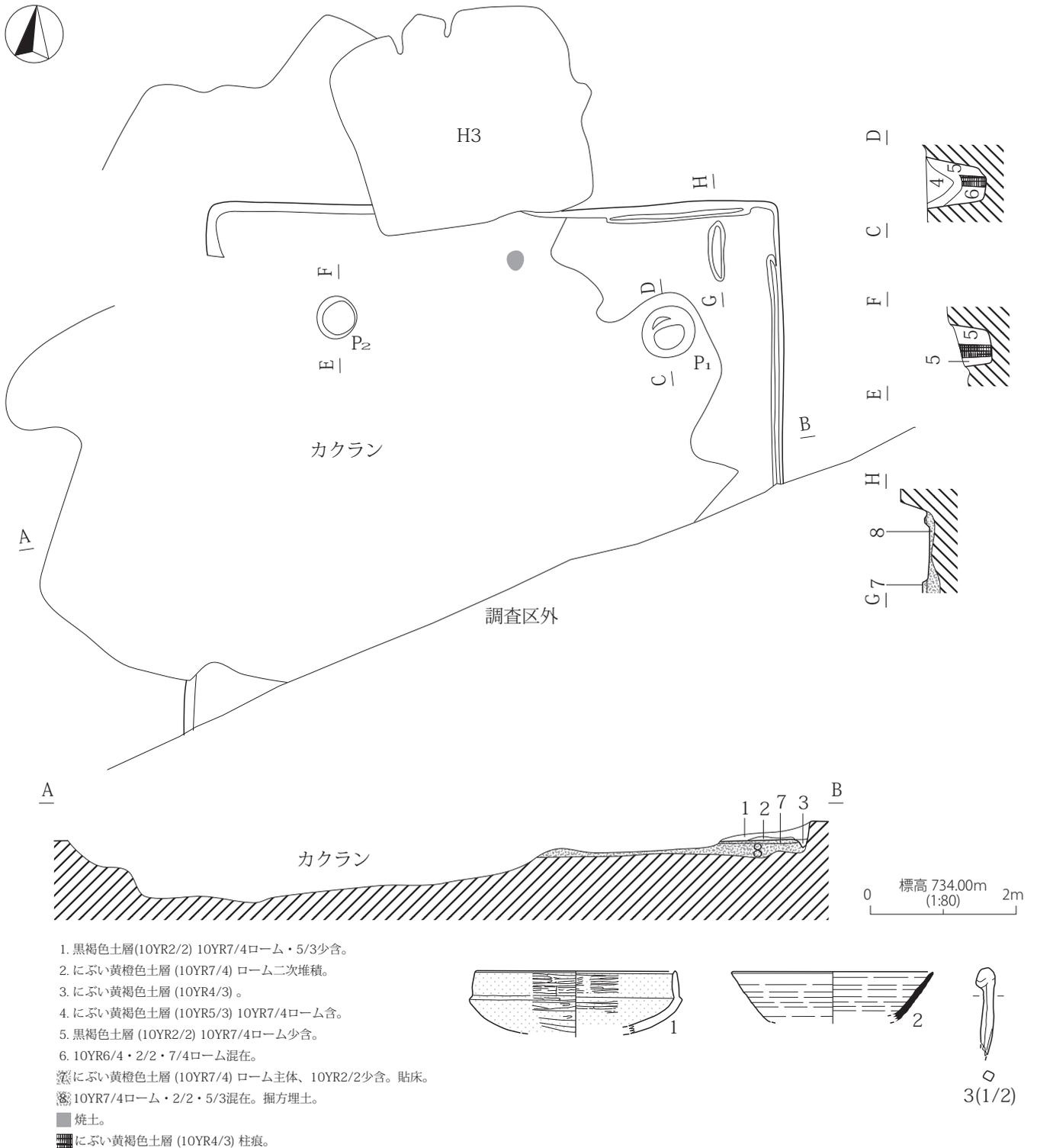


第9図 H6号竪穴建物

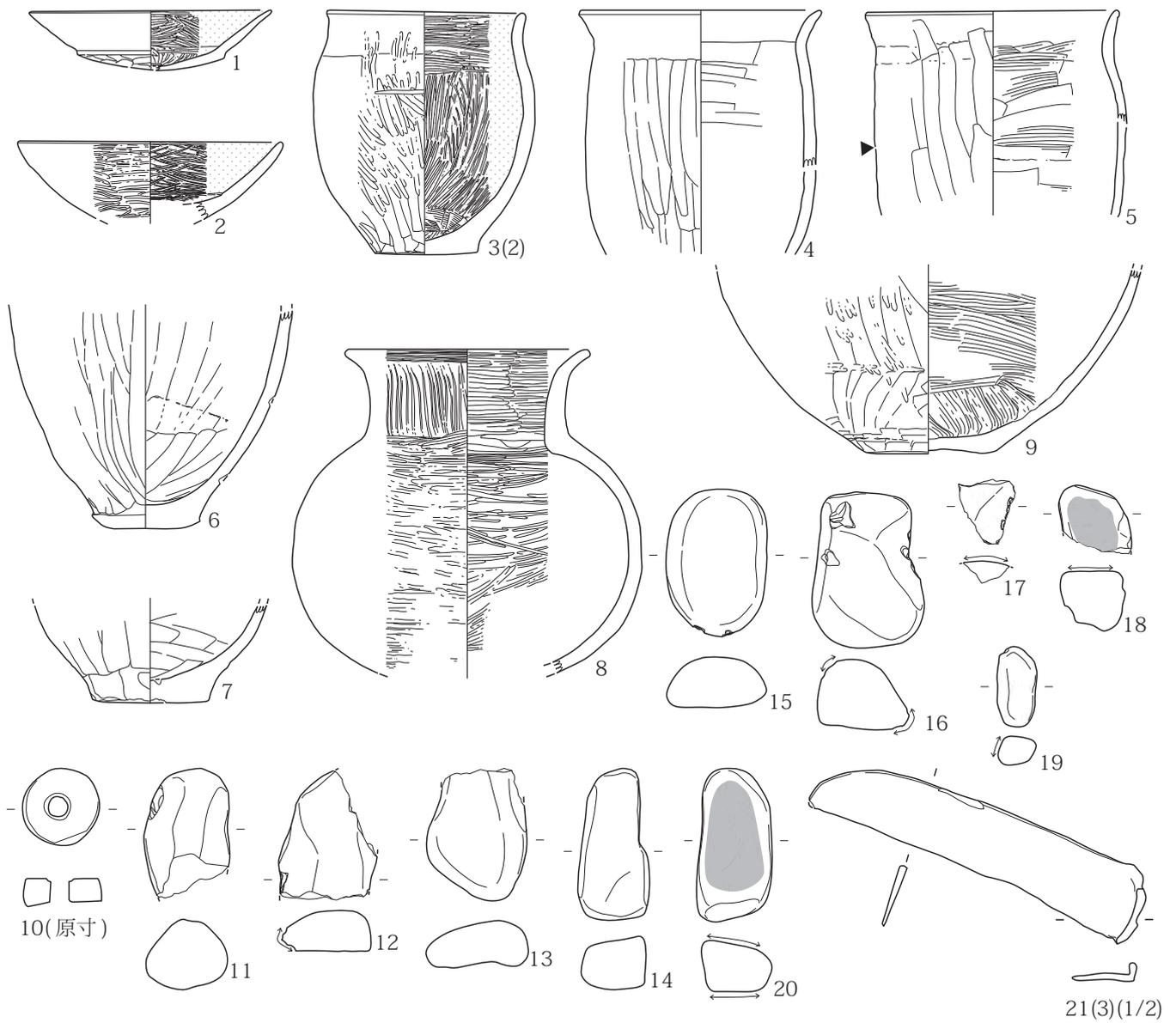
出土遺物は土師器坏、須恵器坏、鉄器角釘が各1点認められる。須恵器は混入品であろう。出土土器の形態的特徴から、本址は古墳時代後期6世紀代の実年代が想定される。

●H8号竪穴建物(第11図)

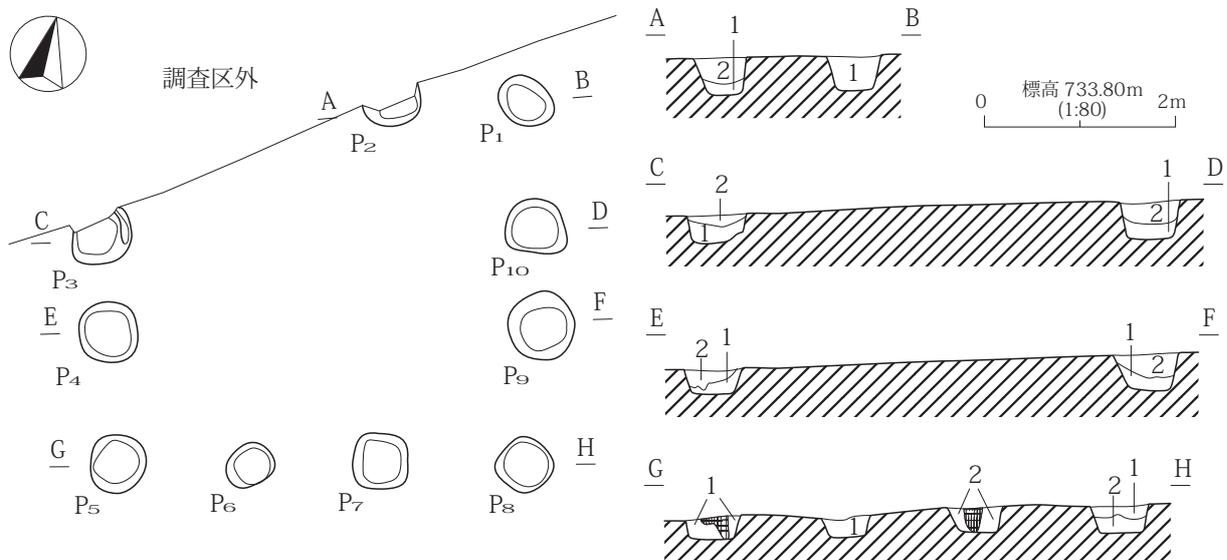
調査区南端で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.47mの規模



第10図 H7号竪穴建物



第12図 H8号竪穴建物(2)



1. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR5/3・2/2含。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。
- 柱痕。

第13図 F1号掘立柱建物

第2節 掘立柱建物

● F1号掘立柱建物 (第13図)

調査区北側でH6とH8の間で検出された。調査区外に延びるため全容は不明であるが、検出範囲では他遺構との重複関係は認められなかった。2間×2間の側柱の形態で、N-101°-Wに長軸方位をとり、桁行長4.47m、梁間長3.91m、面積17.37㎡、柱痕径φ18cmの規模である。

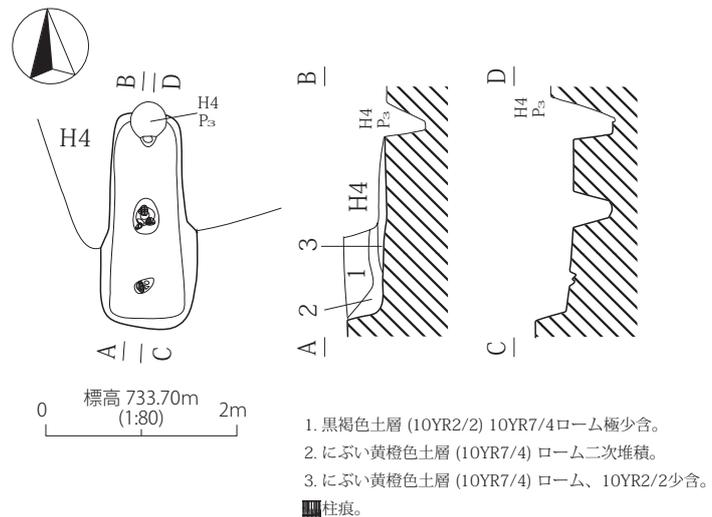
出土遺物は皆無であるが、竪穴建物と軸が揃っており、重複しないことから、竪穴建物と同様に古墳時代後期6世紀代の実年代が想定される。

第3節 土坑

● D1号土坑 (第14図)

調査区中央南寄りで検出された。H4に切られる。平面隅丸方形、断面逆梯形の形態で、底面には小径のピットが3基穿たれている。N-4°-Wに長軸方位をとり、長軸長2.3m、短軸長1.02m、壁残高0.32mの規模である。

遺物は、皆無であるが、形態的特徴から本址は縄文時代の陥穴と思われる。



第14図 D1号土坑

第4節 ピット (第15・16図)

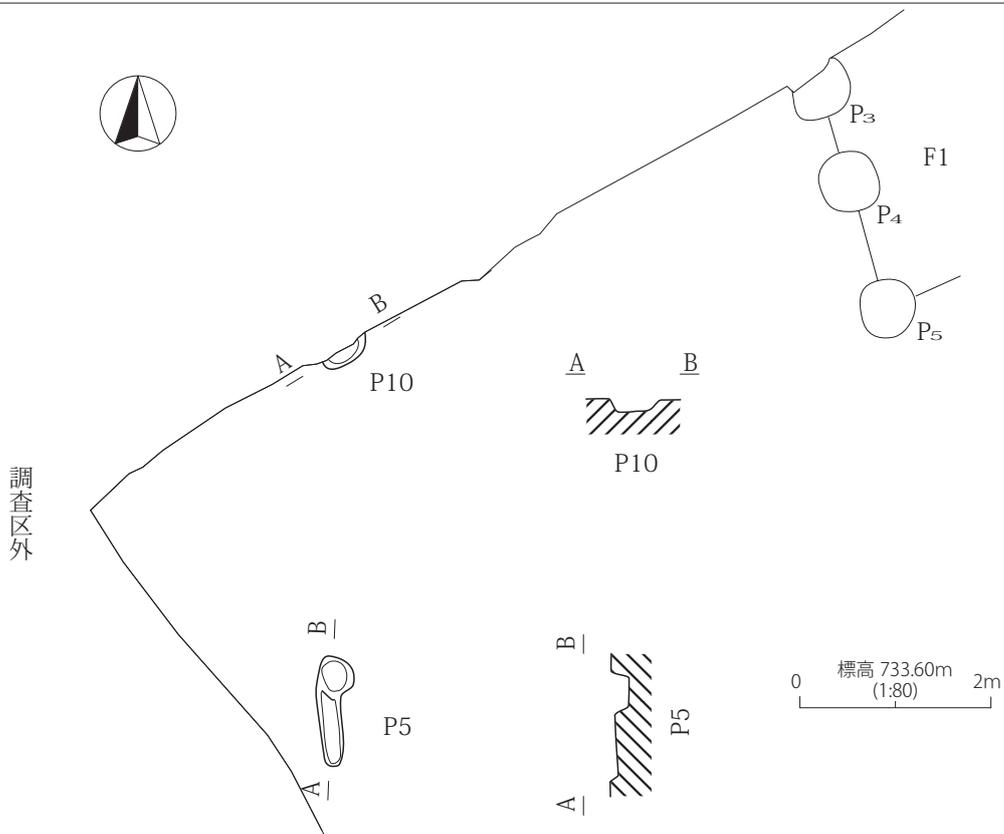
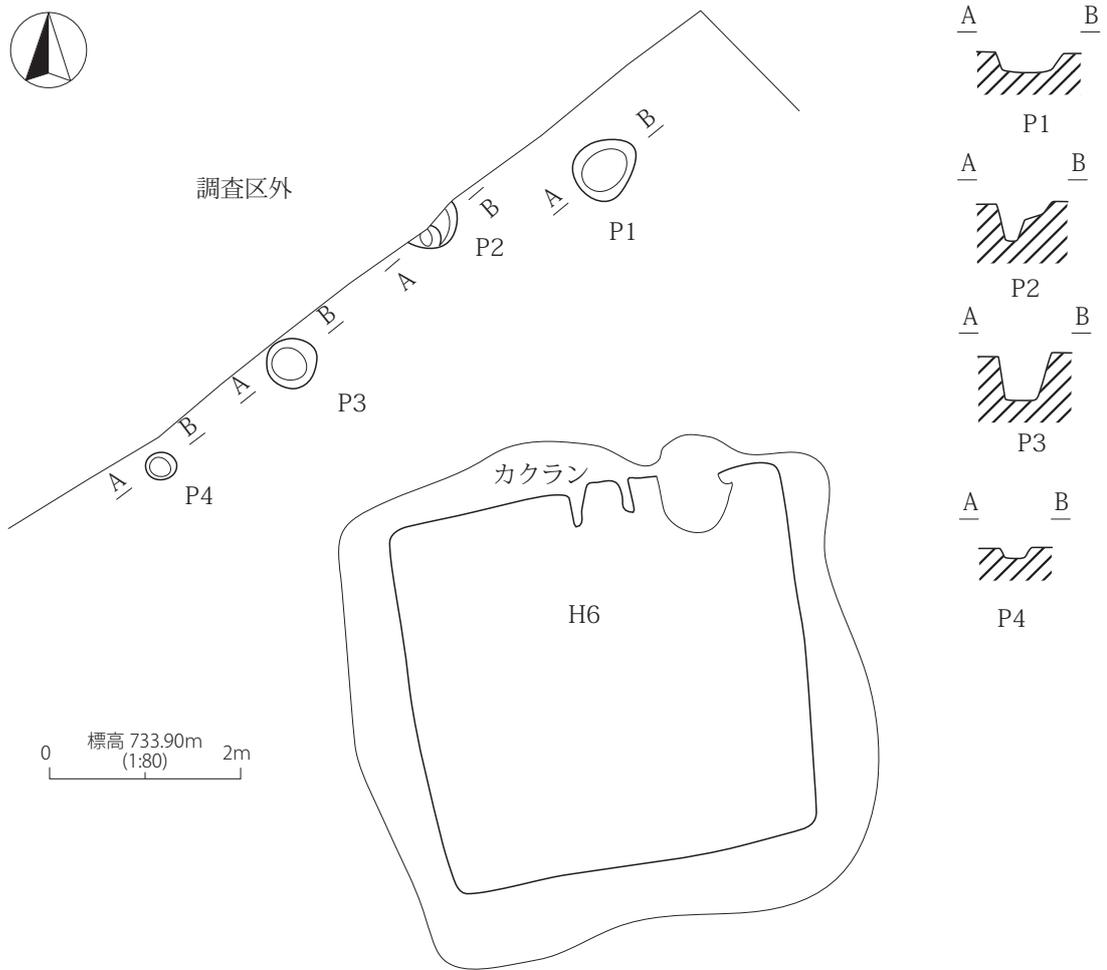
10基検出された。調査区全体に展開している。詳細は計測表を参照されたい。

第Ⅲ章 まとめ

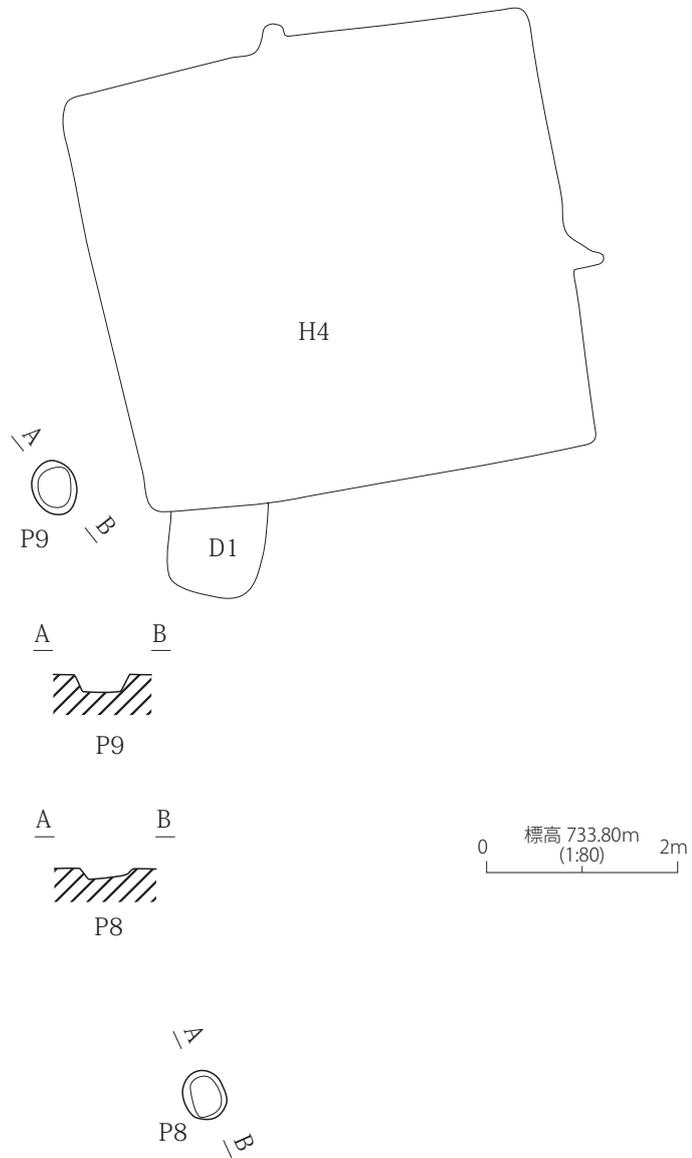
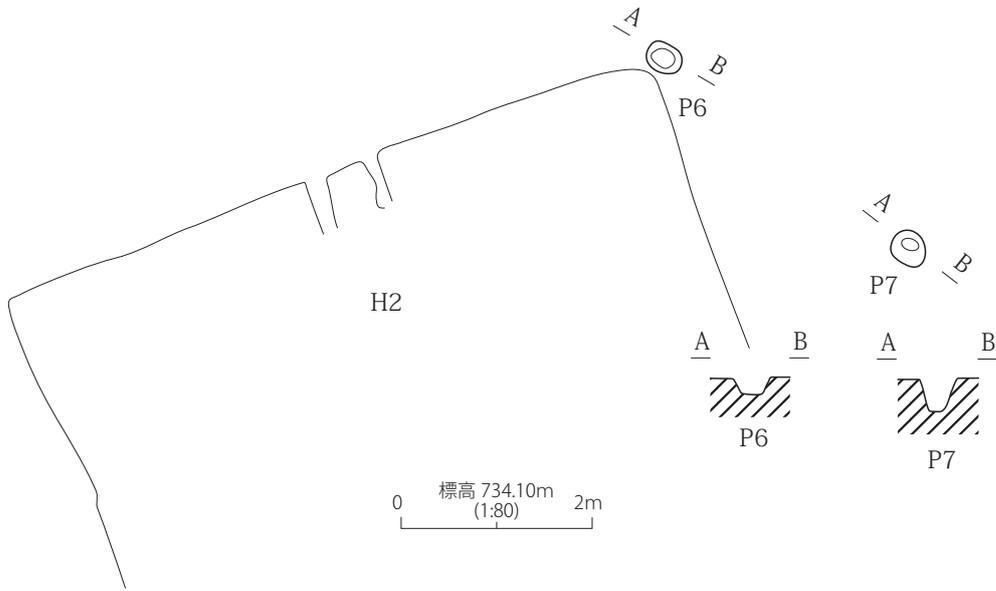
上聖端遺跡の北には聖原遺跡が隣接しており、二つの遺跡を分離する根拠は存在しないため、基本的に同一の遺跡として捉えることが望ましい。大規模遺跡としての聖原遺跡の端緒は6世紀にあることも、当遺跡の時期と矛盾しない。上聖端遺跡内では今回の調査を含め、5次に亘る調査が行われており、偶然にも調査区域は集中している。時期的にはⅡ・Ⅲ・Ⅳ次調査では7世紀末から8世紀代であるが、Ⅲ次の北西端に構築された1軒が今回調査分と同様に古墳時代後期6世紀の所産である。台地北側には古墳時代後期遺構が集中するのかもしれない。縄文時代陥穴は低湿地周辺に展開する傾向があることから、D1号土坑の存在は付近に低湿地の広がりを示唆するものかもしれない。出土遺物は6世紀の土器が主体であり、混入物は認められなかった。一つの時期の遺構数は比較的多いが、遺構同士は重複しない傾向が認められる。

引用・参考文献

- | | | | |
|------|--------------------|--------|----------|
| 1993 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第24集 | 上聖端遺跡 | 佐久市教育委員会 |
| 2012 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第211集 | 上聖端遺跡Ⅱ | 佐久市教育委員会 |
| 2014 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第226集 | 上聖端遺跡Ⅲ | 佐久市教育委員会 |
| 2017 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第252集 | 上聖端遺跡Ⅳ | 佐久市教育委員会 |



第15図 ピット(1)



第16図 ピット(2)

竪穴建物計測表

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ビット	付属施設	備考	時期
H 1	カクランに切られる	N - 15° - W	4.56	-	0.40	-	4	カマド、周溝	-	6世紀
H 2	H3に切られる	N - 20° - W	-	7.06	0.14	-	7	カマド、周溝、間仕切、貯蔵穴	-	6世紀
H 3	H2・7を切る	N - 22° - W	3.26	3.03	0.30	7.27	1	カマド	建て替え	8世紀
H 4	D1を切る	N - 10° - W	4.95	4.74	0.18	20.16	9	カマド、周溝、間仕切、貯蔵穴	カマド付け替え	6世紀
H 5	カクランに切られる	N - 9° - W	-	3.94	0.07	-	6	カマド、周溝	-	6世紀
H 6	カクランに切られる	N - 9° - W	4.21	4.01	0.21	14.37	6	カマド、周溝	-	6世紀
H 7	H3に切られる	-	-	-	0.37	-	2	カマド、周溝	-	6世紀
H 8	カクランに切られる	-	-	-	0.47	-	10	周溝、間仕切、張出部に貯蔵穴	-	6世紀

掘立柱建物計測表

遺構名	重複関係	長軸方位	桁行長	梁間長	面積	柱痕径	桁立柱間寸法	梁間柱間寸法	備考
F 1	-	N - 101° - W	4.47	3.91	17.37	0.18	1.39 ~ 1.54	0.96 ~ 1.47	-

土坑計測表

遺構名	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	備考
D 1	H4に切られる	隅丸長方形	N - 4° - E	2.30	1.02	0.32	1.44	陥穴

ビット計測表

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	重複関係		備考		
						長軸長	短軸長			
P 1	-	楕円形	0.72	0.62	0.23	楕円形	楕円形	0.38	0.31	0.19
P 2	-	楕円形	0.61	-	0.44	楕円形	楕円形	0.41	0.35	0.36
P 3	-	円形	0.55	0.54	0.50	楕円形	楕円形	0.54	0.44	0.14
P 4	-	楕円形	0.33	0.28	0.12	楕円形	楕円形	0.57	0.47	0.21
P 5	-	不整形	1.17	0.39	0.18	楕円形	楕円形	0.50	-	0.15

H1号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	15.1	12.1	4.4	-	ミカキ	底部ヘラケズリ、口縁部ミガキ	完全実測	No2	
2	土師器	鉢	(14.0)	(14.0)	(8.3)	-	ナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区	
3	土師器	甌	-	(8.4)	<8.9>	-	ミカキ	ミカキ	完全実測	No1	
4	石製品	軽石製品	7.0	6.0	3.3	59.3	全体に磨り		完全実測	Ⅲ区	
5	石器	磨石	3.5	17	1.4	13.2	全体に磨り		完全実測	Ⅲ区	

H 2 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長) (15.2)	底径(短) (11.7)	器高(厚) <5.9>	重量等	内面		
1	土師器	坏	(15.2)	(11.7)	<5.9>	—	底部へラケズリ、口縁部ミガキ	回転実測	Ⅱ～Ⅳ区、P4
2	須恵器	坏蓋	(9.6)	—	<2.6>	—	天井部に2条の沈線	回転実測	Ⅲ区
3	土師器	翼	(19.4)	—	<30.2>	—	へラケズリ	回転実測	Ⅱ区、カマド
4	土師器	翼	—	—	<19.4>	—	ハケメ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区、カマド
5	土師器	壺	(14.6)	(6.5)	(21.6)	—	へラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅱ区、P2
6	土師器	壺	—	—	<25.5>	—	へラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅰ～Ⅲ区、P4
7	石器	砥石	<12.5>	<7.5>	<5.7>	<48.9>	ミガキ→赤彩	回転実測	Ⅳ区
8	石製品	軽石製品	9.0	6.9	4.6	12.2	上部欠損、砥面数5、端部に条痕	完全実測	Ⅳ区
9	石器	編物石	9.9	5.9	2.8	21.2	全体に磨り	完全実測	覆土
10	石器	編物石	11.4	7.0	3.7	40.3	使用痕有り	完全実測	P 1
11	石器	編物石	11.5	7.1	3.8	38.9	—	完全実測	No2
							側面に挟り		

H 3 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長) (12.8)	底径(短) —	器高(厚) <2.0>	重量等	内面		
1	須恵器	坏蓋	(12.8)	—	<2.0>	—	回転へラケズリ	回転実測	Ⅳ区
2	土師器	武蔵甕	(19.8)	—	<8.6>	—	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ区
3	土師器	武蔵甕	(22.6)	(5.0)	<28.8>	—	へラケズリ	回転実測	Ⅳ区
4	石製品	白玉	0.9	0.85	0.35	0.39	ナデ	完全実測	Ⅳ区
5	石器	編物石	7.3	4.5	3.6	146.0	孔径0.25	完全実測	Ⅳ区
							両側に挟り		

H 4 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長) (14.8)	底径(短) (9.4)	器高(厚) <3.5>	重量等	内面		
1	土師器	坏	(14.8)	(9.4)	<3.5>	—	へラケズリ	回転実測	Ⅳ区、P5
2	土師器	高坏	(15.0)	(8.3)	<4.4>	—	ミガキ	回転実測	Ⅲ区ホリ、Ⅳ区
3	須恵器	坏	(12.8)	(15.4)	<2.9>	—	ナデ	回転実測	P5
4	須恵器	坏	—	(14.2)	<3.4>	—	ナデ	回転実測	Ⅳ区
5	土師器	甕	—	(7.2)	<4.8>	—	ナデ	回転実測	Ⅳ区、P5
6	石器	石鏃	<2.60>	1.4	0.3	<1.09>	チャート、先端欠損	完全実測	Ⅰ区
7	石器	磨石	6.6	4.3	1.2	42.0	磨面2、縁辺に使用痕	完全実測	Ⅲ区ホリ
8	石器	磨石	6.8	4.6	2.6	130.2	全体に磨り	完全実測	Ⅳ区ホリ

H 5 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長) (21.0)	底径(短) (7.0)	器高(厚) (13.3)	重量等	内面		
1	土師器	鉢	(21.0)	(7.0)	(13.3)	—	ミガキ→黒色処理	回転実測	No2、Ⅰ区
2	土師器	甕	(18.2)	—	<4.6>	—	ナデ	回転実測	No1

H 6 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	(15.2)	(12.2)	<5.4>	-	ミガキ	ナデ	回転実測	カマド	
2	土師器	坏	(17.0)	(13.2)	<5.2>	-	ミガキ→黒色処理	ハラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅱ区	
3	土師器	鉢	(11.0)	(5.8)	(9.3)	-	ナデ	ミガキ	回転実測	Ⅳ区・Ⅳ区ホリ、P4	
4	土師器	甕	(16.7)	(6.0)	(38.1)	-	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	Ⅱ区	
5	土師器	甕	-	(5.4)	<4.9>	-	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	No1、Ⅰ区、ケン	
6	石器	砥石	7.1	6.8	5.0	141.2	正面に砥面、条痕あり		完全実測	Ⅲ区	

H 7 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	(14.0)	(14.8)	<4.3>	-	ミガキ→黒色処理		回転実測	Ⅰ区	
2	須恵器	坏	(14.0)	-	<3.5>	-	ナデ	ミガキ→黒色処理	回転実測	カクラン	
3	鉄製品	釘	<3.1>	0.6	0.3	<1.29>	先端欠損	火髻	完全実測	Ⅰ区	

H 8 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	(15.0)	(9.0)	<4.7>	-	ミガキ→黒色処理	ハラケズリ	回転実測	Ⅰ区、P3	
2	土師器	高坏	(6.4)	-	<5.3>	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	Ⅲ区	
3	土師器	鉢	12.4	6.4	15.2	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	No2	
4	土師器	甕	(15.0)	-	<15.2>	-	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅰ区、P3	
5	土師器	甕	(15.7)	-	<12.8>	-	ハケメ	ハラケズリ	回転実測	Ⅳ区	
6	土師器	甕	-	(6.7)	<13.6>	-	ナデ	ハラケズリ	回転実測	Ⅳ区	
7	土師器	甕	-	(7.2)	<6.1>	-	ナデ	ハラケズリ	回転実測	Ⅳ区	
8	土師器	壺	(15.2)	-	<20.1>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅰ区	
9	土師器	壺	-	(7.9)	<11.4>	-	ハケメ	ハラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅳ区、P6	
10	石製品	白玉	1.2	1.2	0.4	1.12	孔径0.30、滑石製		完全実測	Ⅰ区	
11	石器	編物石	<8.1>	<5.3>	<4.5>	<210.5>	下部欠損、使用痕有、上端部赤色部分有		完全実測	Ⅳ区	
12	石器	編物石	<8.1>	<6.1>	<2.6>	<148.4>	下部・側面欠損、挟り有		完全実測	Ⅳ区	
13	石器	編物石	<8.3>	<6.2>	<3.0>	<183.7>	上部欠損		完全実測	Ⅳ区	
14	石器	編物石	8.5	4.5	3.1	180.9	一部黒化		完全実測	Ⅳ区	
15	石器	編物石	9.2	6.2	3.2	257.5	使用痕有		完全実測	Ⅳ区	
16	石器	編物石	9.7	6.9	4.5	359.0	挟り・使用痕有		完全実測	Ⅳ区	
17	石器	磨石	<4.1>	<3.5>	<1.6>	<18.4>	全周欠損、磨面1		完全実測	Ⅲ区	
18	石器	磨石	<4.3>	<4.5>	<3.7>	<84.0>	下部欠損、磨面1		完全実測	Ⅳ区	
19	石器	磨石	5.0	2.5	1.8	31.8	全体に磨り		完全実測	Ⅳ区ホリ	
20	石器	磨石	9.6	4.7	3.7	198.7	磨面2		完全実測	Ⅳ区ホリ	
21	鉄器	鎌	10.80	2.40	0.25	26.40		-	完全実測	No3	



H1 号竖穴建物完掘



H1 号竖穴建物カマド



H2 号竖穴建物完掘



H2 号竖穴建物カマド



H3 号竖穴建物完掘



H3 号竖穴建物カマド



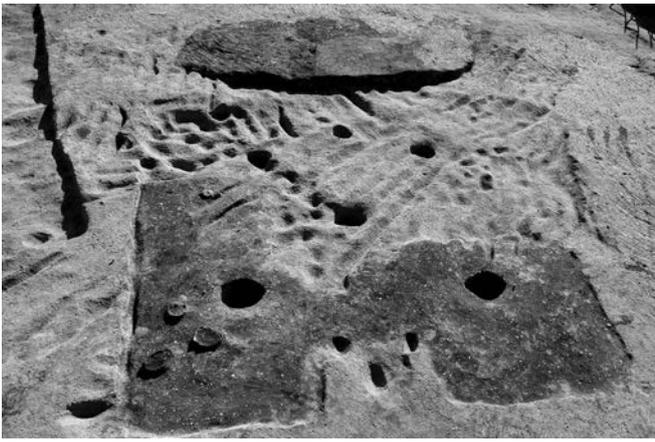
H4 号竖穴建物完掘



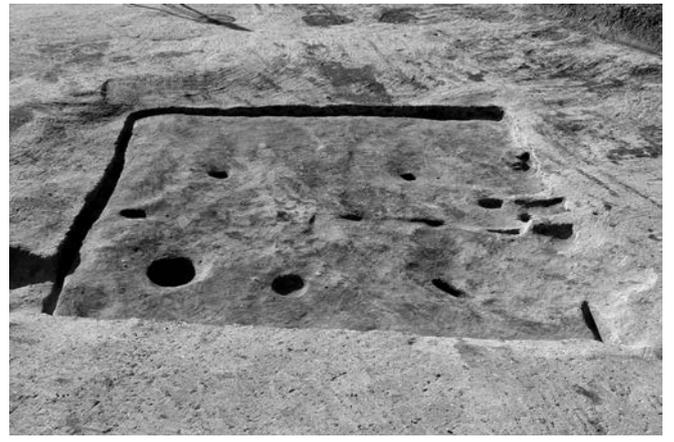
H4 号竖穴建物北カマド



H4 号竖穴建物東カマド



H5号竖穴建物完掘



H6号竖穴建物完掘



H6号竖穴建物カマド完掘



H7号竖穴建物完掘



H8号竖穴建物完掘



D1号土坑完掘



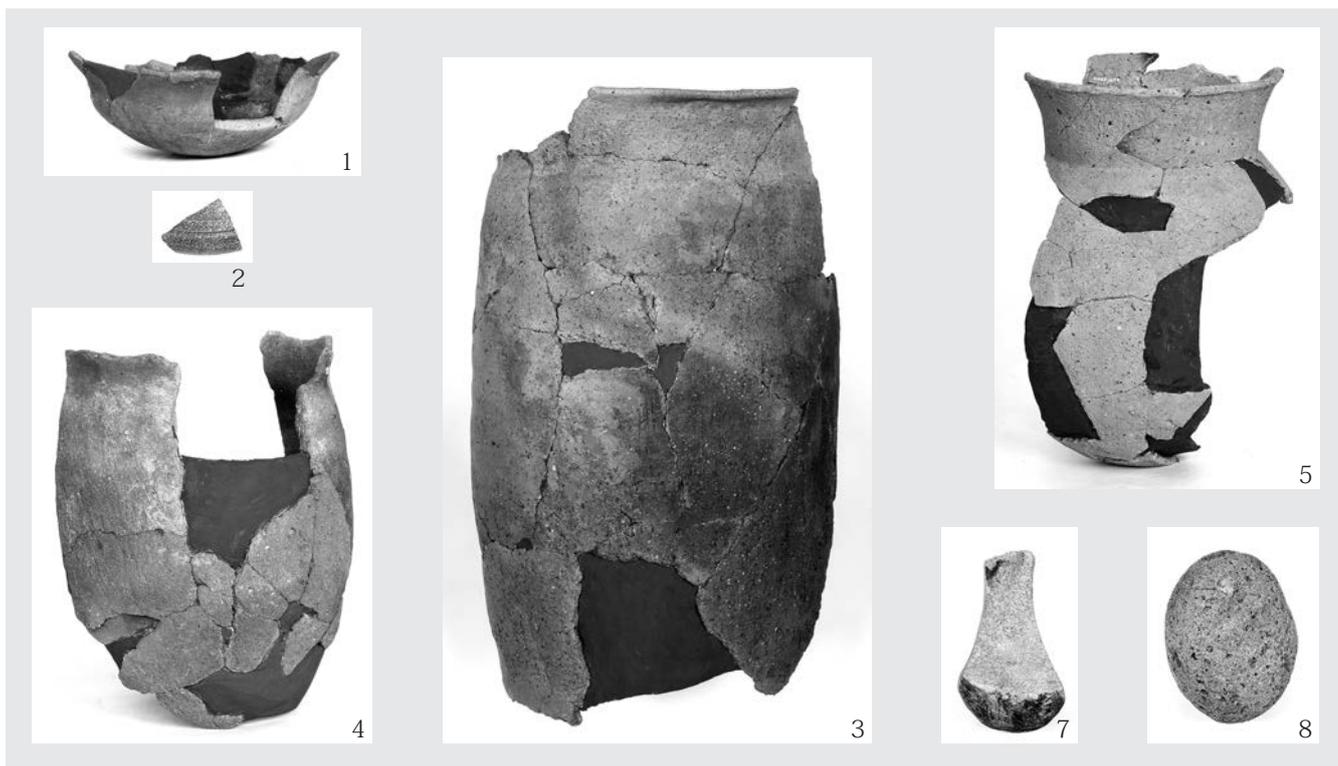
F1号掘立柱建物完掘



上聖端遺跡V全景



H1 竪穴建物出土遺物



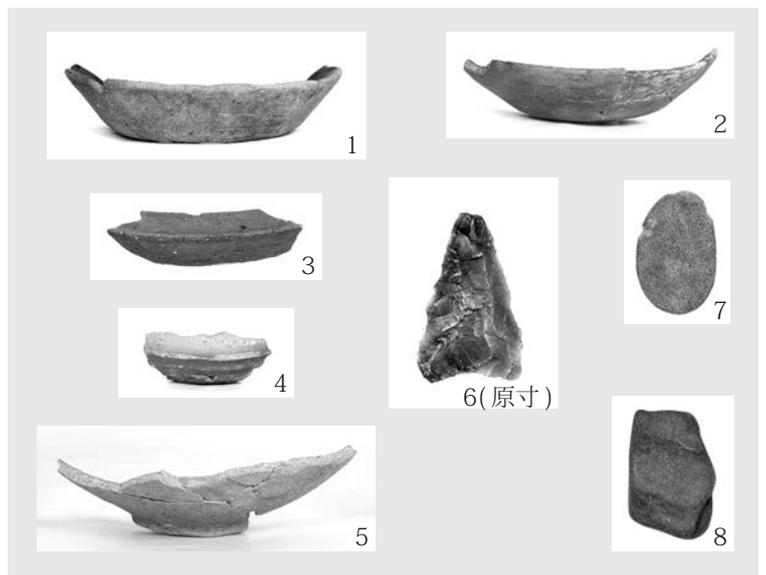
H2 竪穴建物出土遺物 (1)



H2 豎穴建物出土遺物 (2)



H3 豎穴建物出土遺物



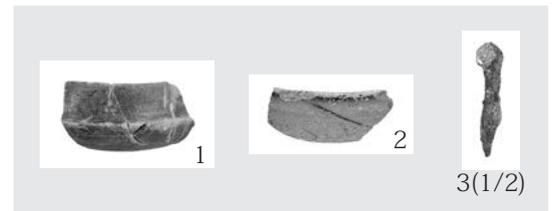
H4 豎穴建物出土遺物



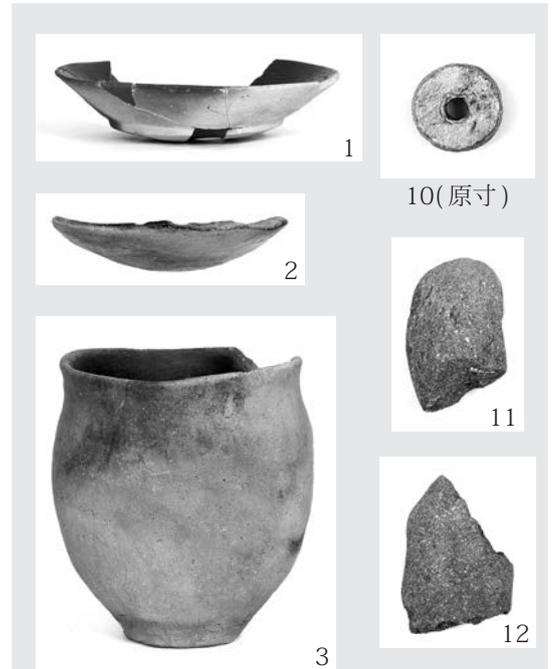
H5 豎穴建物出土遺物



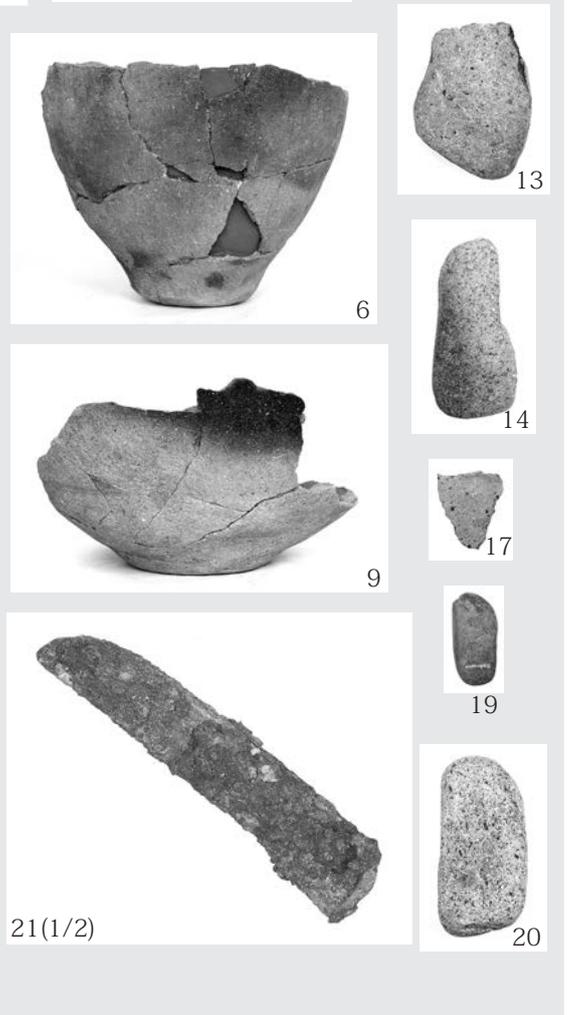
H6 豎穴建物出土遺物



H7 豎穴建物出土遺物



H8 豎穴建物出土遺物



報告書抄録

ふりがな	かみひじりばたいせき 5							
書名	上聖端遺跡V							
副書名								
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 288 集							
編著者名	小林真寿							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 TEL 0267-63-5321 FAX0267-63-5322							
発行年月日	令和 4 年（2022） 3 月							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
かみひじりばたいせき 5	さくしながとろあざかみひじりばた	20217	9	36° 28'81"	138° 47'66"	令和元年 11月5日 ） 11月27日	596.31m ²	配送センター建設
上聖端遺跡V	佐久市長土呂字上聖端 157-1 他							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
上聖端遺跡V	集落址	古墳時代後期	竪穴建物 - 8 軒 掘立柱建物 - 1 棟 土坑 - 1 基 ピット - 10 基	土師器 須恵器 石器・石製品 鉄器				
要約	古墳時代後期の集落址の調査。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 288 集

上聖端遺跡V

令和 4 年 3 月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒 385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒 385-0051 長野県佐久市中込 2913

TEL 0267-63-5321

印刷所

キクハラインク有限公司

